



※本出品目録は、2022年4月23日～6月19日の会期における「生誕110年みんなのオノサト・トシノブ展」の全出品作品を掲載しています。
※No.は出品番号です。ほぼ制作年順であり展示順ではありません。空欄は「みんなのオノサト・トシノブ」コーナーに寄せられた作品から展示の構成上出品に加えた作品です。
※作品タイトルはおもに所蔵先の表記に従いました。
※会期中、予告なく展示替えをおこなうことがございます。ご了承ください。

I-1 模索-戦前

no.	作品名	制作年	技法・素材	サイズ	所蔵
1	自画像	1933年（昭和8）頃	鉛筆・紙	22.0×16.2cm	当館蔵
2	野原隆平像	1933年（昭和8）頃	ペン・紙	32.0×23.5cm	当館蔵
3	人と木と鳥（枯枝に鳥の……）	1933年（昭和8）	油彩・カンヴァス	41.0×31.8cm	個人蔵（群馬県立近代美術館寄託作品）
4	長崎の倉庫とテラスのある黒い家	1935年(昭和10)	油彩・カンヴァス	65.3×90.8cm	個人蔵（大川美術館寄託作品）
5	電球とつりひも	1935年(昭和10)	油彩・カンヴァス	19.0×24.0cm	個人蔵（大川美術館寄託作品）
6	作品	1935-40年頃(昭和10-15頃)	油彩・板	53.3×41.0cm	当館蔵
7	ビードロの軌跡	1936年（昭和11）	墨・紙	29.0×38.0cm	個人蔵
8	裸瑛九	1938年(昭和13)	水彩・紙	22.5×26.5cm	当館蔵
9	雨後	1939年（昭和14）	油彩・合板	53.0×45.5cm	当館蔵
10	紙ばり	1940年(昭和15)	墨、和紙、コラージュ	65.2×91.0cm	桐生市蔵（当館寄託作品）
11	〔人（土立体）〕	1940年（昭和15）頃	粘土	12.0×21.0×13.8cm	個人蔵（当館寄託作品）

【資料】

津田青楓洋画塾々則及び指導精神 1931年
村井正誠[作品]1930年代 ペン・紙
『同時代』1936年9月（真岡市教育委員会所蔵）
清水七太郎「小野里利信君」『自由美術』1952年6月
長谷川三郎「アブストラクト アート」『みづゑ』1936年4月

I-2 模索-戦後

12	人	1949年(昭和24)	油彩・カンヴァス	116.7×91.0cm	個人蔵（当館寄託作品）
13	頭脳	1950年（昭和25）	油彩・カンヴァス	53.0×40.9cm	個人蔵
14	果物	1950年（昭和25）	油彩・カンヴァス	24.2×33.3cm	個人蔵
15	三つの立像	1951年（昭和26）	油彩・板	15.5×22.5cm	個人蔵
16	川の石	1952（昭和27）	油彩・合板	53.0×65.2cm	個人蔵
17	もんしろ蝶	1953年（昭和28）	油彩・カンヴァス	41.0×53.0cm	個人蔵
18	黒と白	1953年(昭和28)	油彩・カンヴァス	116.5×91.0cm	個人蔵（当館寄託作品）

II.「ベタ丸」誕生

19	ポスト	1955年（昭和29）頃	油彩・カンヴァス	38.2×45.7cm	個人蔵
20	作品	1955年（昭和30）	油彩・カンヴァス	31.0×40.9cm	個人蔵
21	作品	1955年（昭和30）頃	油彩・カンヴァス	40.9×31.0cm	個人蔵
22	縦縞の丸	1955年（昭和30）	油彩・カンヴァス	41.0×31.8cm	個人蔵
23	作品	1955年頃（昭和30頃）	油彩・カンヴァス	15.8×22.7cm	個人蔵
24	四つの丸	1957年（昭和32）	油彩・カンヴァス	23.0×16.0cm	個人蔵
25	朱の丸	1957年（昭和32）	油彩・カンヴァス	33.4×24.3cm	個人蔵
26	四つと三つの丸	1956（昭和31）	油彩・カンヴァス	45.5×33.0cm	個人蔵
27	白と黒のべた丸	1958年（昭和33）	油彩・カンヴァス	65.0×91.0cm	個人蔵
28	無題	1958年（昭和33）	油彩・カンヴァス	45.5×53.0cm	個人蔵
29	2つの丸	1958年(昭和34)	油彩・カンヴァス	40.8×53.0cm	個人蔵
30	四つの丸	1958年（昭和33）	油彩・カンヴァス	37.9×45.5cm	個人蔵
31	四つの円	1958年（昭和33）	油彩・カンヴァス	20.0×27.3cm	個人蔵
32	三つの丸	1958年（昭和33）	油彩・カンヴァス	16.0×24.0cm	個人蔵
33	三つの丸	1958年（昭和33）	油彩・カンヴァス	15.8×22.8cm	個人蔵
34	3つの円	1958年（昭和33）	油彩・カンヴァス	17.9×13.9cm	個人蔵
35	作品	1959年(昭和34)	油彩・カンヴァス	45.5×53.0cm	個人蔵（当館寄託作品）
36	2つの丸 朱と黒の丸	1959年（昭和34）	油彩・カンヴァス	27.5×41.2cm	個人蔵
37	三つの円	1959年（昭和34）	油彩・カンヴァス	33.3×45.5cm	個人蔵
38	四つの丸	1958年（昭和33）	水彩・紙 紙にアクリル	28..0×38.7cm	個人蔵

39	作品（青と赤の丸）	1958年	水彩・紙	18.8×27.9cm	個人蔵
40	作品	1959年（昭和34）頃	水彩・紙	28.0×37.5cm	当館蔵
41	無題	1959年（昭和34）	水彩・紙	24.0×33.0cm	個人蔵
42	作品	1959年（昭和34）頃	水彩・紙	18.8×28.0cm	当館蔵

Ⅲ 分割する円

43	作品	1961年（昭和36）	油彩・カンヴァス	53.2×45.5cm	当館蔵
44	作品Q	1961年（昭和36）	油彩・カンヴァス	33.1×45.6cm	個人蔵
45	作品M	1961年	油彩・カンヴァス	31.8×40.9cm	当館蔵
46	作品（集合のオレンジ円）	1962年（昭和37）	油彩・カンヴァス	45.5×53.0cm	当館蔵
47	分割-1280	1962年（昭和37）	油彩・カンヴァス	37.9×45.5cm	個人蔵
48	work	1962年（昭和37）	油彩・カンヴァス	45.5×37.9cm	個人蔵
49	作品	1963年（昭和38）	油彩・カンヴァス	45.5×53.0cm	個人蔵
50	Circle100-B	1965年（昭和40）	油彩・カンヴァス	130.3×162.0cm	個人蔵（当館寄託作品）
51	アラベスク	1965年（昭和40）	油彩・カンヴァス	45.2×52.8cm	個人蔵
52	作品（青の集合）	1966年（昭和41）	油彩・カンヴァス	50.3×50.3cm	当館蔵
53	微粒子の円（Silk-3原画）	1966年（昭和41）	油彩・カンヴァス	50.0×50.0cm	個人蔵
54	作品	1966年（昭和41）	油彩・カンヴァス	15.8×22.7cm	個人蔵
55	作品（Silk-5原画）	1967年（昭和42）	油彩・カンヴァス	15.8×22.7cm	個人蔵
56	作品	1968年（昭和43）	油彩・カンヴァス	24.3×33.4cm	個人蔵
57	縦横の四角	1968年（昭和43）	油彩・カンヴァス	60.6×72.6cm	個人蔵
58	Art work	1968年（昭和43）	油彩・カンヴァス	75.0×75.0cm	個人蔵
59	サークル61	1961年（昭和36）	水彩・紙	14.5×24.5cm	個人蔵
60	黄の水平円	1961年（昭和36）	水彩・紙	15.9×24.7cm	個人蔵
	作品（葉匠 青柳「サンサプレー」パッケージ原画）	1961年（昭和36）頃	水彩・紙	12.5×12.5cm	個人蔵
61	黒の円	1962年（昭和37）	水彩・紙	11.6×13.7cm	個人蔵
62	作品	1966年（昭和41）	水彩・紙	36.0×36.0cm	個人蔵
63	赤と白 巴の円	1969年（昭和44）	水彩・紙	20.3×20.2cm	個人蔵

Ⅳ 「版画家」オノサト・トシノブ

64	58-A	1958年（昭和33）	リトグラフ・紙	14.7×23.2cm	個人蔵
65	59-A	1959年（昭和34）	リトグラフ	21.0×30.0cm	個人蔵
66	59-B	1959年（昭和34）	リトグラフ	30.0×49.0cm	個人蔵
67	64- A	1964年（昭和39）	リトグラフ・紙	15.0×25.0cm	個人蔵
68	64-G	1964年（昭和39）	リトグラフ・紙	24.0×24.0cm	個人蔵
69	66-A	1966年（昭和41）	リトグラフ・紙	12.0×18.0cm	個人蔵
70	66-B	1966年（昭和41）	リトグラフ・紙	36.0×36.0cm	当館蔵
71	Silk-3	1967年（昭和42）	シルクスクリーン・紙	50.0×50.0cm	個人蔵
72	Silk-5	1967年（昭和42）	シルクスクリーン・紙	16.0×23.0cm	個人蔵
73	Silk-12	1967年（昭和42）	シルクスクリーン・紙	40.0×40.0cm	当館蔵
74	Extra Print	1972年（昭和47）	シルクスクリーン・紙	20.0×20.0cm	個人蔵
75	Silk-75	1975年（昭和50）	シルクスクリーン・紙	60.0×73.0cm	個人蔵
76	W-2	1980年（昭和55）	木版・紙	10.0×10.0cm	個人蔵
77	T a p e s t r y A	1978年（昭和53）	シルクスクリーン・布	80.0×120.0cm	個人蔵
78	T a p e s t r y B	1978年（昭和53）	シルクスクリーン・布	80.0×120.0cm	個人蔵
79	galaxy	1981年（昭和56）	シルクスクリーン・紙	44.0×100.0cm	個人蔵
80	Silk-100	1983年（昭和58）	シルクスクリーン・紙	60.0×73.0cm	個人蔵
81	A.S.-23	1986年（昭和61）	シルクスクリーン・紙	70.0×70.0cm	個人蔵
	Pulse	1985年（昭和）	シルクスクリーン・アクリル板	14.5×18.0×2.5cm	個人蔵

【資料】

第2回桐生市文化祭絵画展示場での記念撮影（モリマサ百貨店）1950年
 第二回群馬自由美術展招待状（珍竹林画廊）1951年12月

有村真鐵展はがき 1953年
「若い画家たち展」案内状（桐生市立図書館）1954年1月
「グループ10」案内状コピー（桐生倶楽部） 1954年12月
「グループ10」案内状コピー（神田タケミヤ画廊）1955年8月
「グループ10」のことについて、有村真鐵について、タケミヤ画廊に宛ててて書いたと思われる手紙の草稿 1955年頃
テキスタイル・プランナー新井淳一と画家・新井リコの結婚式の際、お祝いの寄せ書きの一ページに描かれたオノサト直筆の丸 1958年
オノサト・トシノブ宛瑛九書簡 1961年
宮地佑治宛オノサト・トシノブ書簡 1961年1月17日
保倉一郎個展パンフレット 1968年
有村真鐵展パンフレット 1970年
有村真鐵展パンフレット直筆原稿 1970年
和南城孝志展パンフレット 1980年

V-1 無限の色面 1970年代

82	CIRCLE	1969年(昭和44)	油彩・カンヴァス	130.5×193.3cm	個人蔵
83	虹	1969年（昭和44）	油彩・カンヴァス	30.0×30.0cm	個人蔵
84	弧の円黄	1969-70年（昭和44-45）	油彩・カンヴァス	91.0×60.6cm	個人蔵
85	作品（Silk-34原画）	1970（昭和45）年	油彩・カンヴァス	50.0×50.0cm	個人蔵
86	同心円	1970年（昭和45）	油彩・カンヴァス	40.0×40.0cm	個人蔵
87	作品（同心円と巴）	1972年（昭和47）	油彩・カンヴァス	24.3×33.4cm	当館蔵
88	二つのダイヤモンド	1972年（昭和47）	油彩・カンヴァス	24.3×33.4cm	個人蔵
89	黄のアラベスク	1972年（昭和47）	油彩・カンヴァス	45.5×53.0cm	個人蔵
90	ダイヤモンド	1972年（昭和47）	油彩・カンヴァス	42.0×28.5cm	個人蔵
91	作品（斜めの巴）	1973年（昭和48）	油彩・カンヴァス	60.6×72.7cm	当館蔵
92	作品（Silk-73原画）	1973年（昭和48）	油彩・カンヴァス	60.0×73.0cm	個人蔵
93	波動の円	1973年（昭和48）	油彩・カンヴァス	60.8×72.7cm	個人蔵
94	作品	1973年（昭和48）	油彩・カンヴァス	60.6×72.7cm	個人蔵
95	二ツのダイヤモンド	1973年（昭和48）	油彩・カンヴァス	50.0×73.0cm	個人蔵
96	九つの同心円	1973年（昭和48）	油彩・カンヴァス	53.0×45.5cm	個人蔵
97	作品（オレンジとブルーのカット円）	1974年（昭和49）	油彩・カンヴァス	22.0×27.3cm	当館蔵
98	作品（SILK-68の原画）	1974年（昭和49）	油彩・カンヴァス	24.3×33.4cm	当館蔵
99	4 ツの等円	1974年（昭和49）	油彩・カンヴァス	100.0×100.0cmが4枚	個人蔵（当館寄託作品）
100	作品	1974年（昭和49）	油彩・カンヴァス	100.0×100.0cm	個人蔵（当館寄託作品）
101	ダイヤモンドカット円	1974年（昭和49）	油彩・カンヴァス	100.0×100.0cm	個人蔵（当館寄託作品）
102	ペアの円	1974年（昭和49）	油彩・カンヴァス	50.0×50.0cm	個人蔵
103	作品	1976年（昭和51）	油彩・カンヴァス	32.0×41.0cm	個人蔵
104	斜めの分割	1977（昭和52）	油彩・カンヴァス	29.8×29.8cm	当館蔵
105	作品	1977（昭和52）	油彩・カンヴァス	49.5×49.5cm	個人蔵
106	市民ホール緞帳原画（銀河）	1979年（昭和54）	油彩・カンヴァス	60.0×135.8cm	桐生市（当館寄託作品）
107	クローバー（Silk-101原画）	1979年（昭和54）	油彩・カンヴァス	30.0×30.0cm	個人蔵

【資料】

〔個展パンフレット〕
オノサト・トシノブ個展 タケミヤ画廊 1953年5月
オノサト・トシノブ個展 美松書房画廊 1955年5月
櫟画廊新人展 オノザト トシノブ個展 櫟画廊 1958年6月
オノサト・トシノブ作品展 兜屋画廊 1958年5月
オノサト・トシノブ作品展 桐生織物会館 1958年6月
TOSHINOBU ONOSATO－Recent Paintings グレス画廊（ワシントンD.C.） 1961年2-3月
オノサト トシノブ展 南画廊 1962年3月
オノサト・トシノブ展 やまだや画廊 1964年12月
オノサト・トシノブ展 シマ画廊 1972年 9月
オノサト・トシノブ展 やまだや画廊 1972年10月
第9回 奈良書店企画展 オノサト・トシノブ近作展 油彩・版画 シマ画廊 1978年11月

〔関連資料〕

「現代日本の音楽（9）柴田南男、矢代秋雄、交響曲」（日本コロンビア）のレコードジャケット 1970年
「IBM Review」1964年第5号
「桐生青年会議所10周年記念会誌」1968年
「羽仁五郎 講演 芸術とはなにか」（創造美育教会東京支部）1972年7月
日本航空（JAL）の機内食の三ツ折メニューパンフレット 1980年
〔《シルク-75》（1975年）が、パンフレットのデザイン上、縦構図に採用された〕
《蔵書票 Exlibris G》〔久保貞次郎に依頼されて作成したリトグラフによる蔵書票〕 1978年

桐生 葉匠・青柳のサンサブレー葉　1961年頃
オノサト・トシノブ美術館パンフレット　1992年

V-2　無限の色面　1980年代

108	円形カンヴァス 19（溺れる焔）	1980年（昭和55）	アクリル・カンヴァス	dia.20.0cm	当館蔵
109	作品	1980年（昭和55）	油彩・カンヴァス	100.0×100.0cm	個人蔵
110	12分割円の開花(A)	1983年（昭和58）	油彩・カンヴァス	100.0×100.0cm	当館蔵
111	作品（4つの小丸）	1985年（昭和60）	油彩・カンヴァス	13.9×17.9cm	当館蔵
112	十二分割の展開	1985年（昭和60）	油彩・カンヴァス	100.0×100.0.cm	個人蔵
113	四ツの円の星（AS-23原画）	1986年（昭和61）	油彩・カンヴァス	70.0×70.0cm	個人蔵
114	星	1986年（昭和61）	水彩・紙	14.6×9.8cm	当館蔵

【オノサト・トシノブのことば】

《人》1949年
昭和十七年に兵隊にいった。そして三年、続いてシベリア抑留三年、あしかけ七年の間、最後に描いた晩秋の柿の木を考え続けた。絵のことを考えるのが唯一の私の場所であつたが、そこから一步も出なかつた。
帰ってくると、急激に象徴的な人間像にとらえられた。そして柿の木をぬりつぶして「人間性」を描いた。不毛の地から帰ってきた飢えた精神には、「人間像」は非常な魅力であつた。
（『美術ジャーナル』1961年5月号）

《黒と白》1953年
この絵のなかに、人を、水を、石を存在させたいと思う。白黒のそばくさが一番たいせつであるように、白黒としての自分の心が動いてゆくままに、形や色をつけてみます、いいかえれば、人や石と同じような人間の心が新しく何かを生み出すと考えるのです。
（『抽象と幻想展－非写実絵画をどう理解するか－』東京国立美術館、1953年）

同じ大きさの「丸」を並べるといふこと、その事に感動があつた。－それですべてである。作画は感動の具体化として起こる。丸い色面が並べられその空隙を縦、横を線によつて埋められる。空隙が作るあらゆる変化は丸の動、静をつくりだす欲求を満たすために生まれる。純粋色は自然色からくる模写的な要素はさけさせる。
丸が同じ大きさであることは情緒に流れることを救う。丸い形は画面に意味を附加したくないしるしである。（中略）同じ大きさの円をただ並べるといふ考えが生れたとき、驚きをもつて私の心をいっぱいにおめた。それは完全に私のものであつた。
（「私の「円」－具体から抽象への往復運動－」　『美術ジャーナル』　1961年3月号）

近作では、仕事はますます細分され、一つ一つのますめはより緻密に、時間を必要とするようになった。作品を決定する時間と緊張が私に抵抗を与える。私はすでに、怒りをもって絵画を忘れつつある。
（「私の「円」－具体から抽象への往復運動－」　『美術ジャーナル』　1961年3月号）

体験の表わし方は、個人により、また時代、民族によつてちがってくるということは、純粋な形に抽象された標識というものも、個人により、また時代民族によりちがってくるということである。現実の体験の抽象である標識は、かならず現実と結びついている。その意味で、純粋な形態をとつた色彩が表わす標識は、かならず、現代の实在であるといえるだろう。
（シマ画廊開設5周年記念「オノサト・トシノブ展」1972年9月）

物質の精神化と精神の物質化という問題に私はぶつかっている。
私は実現したいのは後の方である。
光を私は、私の内部から見つけたいと思う。
（未発表の断片より　1978年）